

群馬県立館林高等学校 1 学年

「生き方・在り方大研究-働くこととは-」

講演会資料

働くとは何かを考える

—社会に貢献できる人になるために高校時代にしておくべきこととは—



2013年11月6日(水)

14:10 ~ 15:30

群馬県立館林高等学校

群馬経済同友会

林 明 夫

Q 1 : 本日の林さんの講演の目的は何ですか。

- A : (1) これからの社会のありようを考える上で
(2) これからの社会で働くこととは何か
(3) これからの社会で求められる能力とは何か
(4) これからの社会で貢献できる人になるために高校時代にしておくべきこととは何か
について、皆様が自分の力で考えるヒントを掴んでもらうこと。

Q 2 : 自己紹介として、林さんが中学生や高校生、大学生のときに好きだったことばで今も大切にしていることばをいくつか紹介してください。

A : はい。

- (1) 「練習で泣いて、試合で笑え」。これは、足利市立山辺中学校の柔道部監督、椎名弘先生から教えて頂いたことばです。椎名先生からは「柔よく剛を制す」「自他共栄」(自分も他人も共に栄えよう)などということばも教えて頂きました。
- (2) 「ブルドッグ魂」(食いついたら離すな)。このことばは、中学校 2・3 年生のクラス担任の岡田忠治先生から教えて頂きました。
- (3) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)。このことばは、栃木県立足利高等学校のマラソン大会の合い言葉でした。
- (4) 「法学徒(法律を学ぶ者)はいつも最悪の場合を考えて行動すること」。このことばは、慶應義塾大学法学部法律学科 2 年生のときに法思想史のゼミを担当した峯村光郎先生から教えて頂きました。
- (5) 「注意一秒、ケガ一生」。このことばは、大学 3・4 年生のときの犯罪学刑事政策被害者学ゼミの宮沢浩一先生から教えて頂きました。

(6) ここで、私から質問です。皆様は、今私が紹介した 5 つのことばのうち、どれが一番好きですか。次の()に書いてください。()

(7) 皆様にもう 1 つ質問があります。皆様が小学校や中学校、高校で学んでいる中で好きなことばがあったら、下の _____ に 3 つ書いてください。

- ① _____
② _____
③ _____

*あとで私にも教えてくださいね。

Q 3 : 林さんは、これまでどのような勉強や仕事、活動をしてきましたか。少し紹介してください。

A : はい。

- (1) 大学を卒業してから 29 歳まで慶應義塾大学法学部の司法研究室というところに研究生として在籍し、弁護士になりたくて司法試験の勉強をしていました。20 歳ぐらいから、アルバイト

トで予備校や学習塾の講師、家庭教師をしていました。

(2) 29歳のときに、法律の勉強を続けながら開倫塾を創業、塾長になりました。5年後に株式会社開倫塾を設立し、社長になりました。

(3) 1998年に米国のワシントン D.C にある世界銀行研究所、1999年に米国のボストンにあるハーバード大学行政大学院国際開発研究所、2002年にシンガポール大学行政大学院に行き、民営化の短期集中コースを修了しました。

(4) 2004年から2010年までの6年間、宇都宮市に本社のある手術用縫合針製造のマニー株式会社の社外取締役を務め、現在は顧問をしています。

*ここで皆様に質問です。マニー株式会社は、ハノイ()、ヤンゴン()、ビエンチャン()に現地法人があります。()の中に国名を記入してみてください。

(5) 20年以上前から足利市にある社会福祉法人両崖福祉会、特別養護老人ホーム清明苑の理事を務めています。

(6) 現在、福島市にある学校法人有朋学園、有朋高等学院の理事長も務めています。

(7) ラジオ栃木放送で「開倫塾の時間」(毎週土曜日午前9:15～25放送)を担当。この3月で27年目に入りました。(CRT、1062kHz)

(8) 宇都宮大学大学院工学研究科の客員教授もしています。

Q4 : いろいろなことをしているのですね。ところで、林さんはこれからの社会はどんな社会だとお考えですか。また、そのような社会で求められる能力はどのようなものだとお考えですか。

A : これからの社会は、次のような3つの特徴を持つ社会だと私は考えます。

(1) 「知識基盤ちしききばんがた型社会」

① 知識が基盤となっている社会。英語で Knowledge Based Society (ナレッジ・ベイスト・ソサイアティ) といいます。

② 「知識基盤型社会」で求められる能力は、「知識・情報・技術を用いる能力」だと考えます。

③ IT能力は欠かせません。

(2) 「グローバル化社会」

① グローバル化された社会

② 「グローバル化社会」で求められる能力は、「多様な集団で交流する能力」だと考えます。

③ 「多様な」というのは、「国や民族、言語、文化、歴史、大切にすることは何か」という価値観などが自分と異なっている」ということだと考えます。

④ 多様な集団で交流する場合に最も大切な能力は、まずは、自分の意見・考えをはっきりと持ち、相手に伝える能力です。次に、自分と異なった意見、考えなどを持った人の存在をあるがままに認め、争いを起こさずにうまく折り合いをつけながらやっていく能力です。

⑤ 「関係は本質に先立つか？」という問いがあります。本質的には異なるけれども、様々な創意工夫をしてうまく関係を築くことで争いになることを避けることができるかもしれませんね。

⑥ 「明るく元気なあいさつ」などは、人と人との関係を築くのに世界中どこでもとても有効です。

⑦「英語」は欠かせません。

(3) 「課題山積社会」

①これからの社会は、取り組むべき課題が山のように積まれた社会だと私は考えます。

②ところで、皆様はどのような課題があるとお考えですか。下の()の中に入れてください。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| (ア) | () | (カ) | () |
| (イ) | () | (キ) | () |
| (ウ) | () | (ク) | () |
| (エ) | () | (ケ) | () |
| (オ) | () | (コ) | () |

③これらの山積した課題を解決するために必要な能力は、「高い志」を持って「自律的に活動する能力」だと私は考えます。

Q5：これらの能力を身に着けるために必要なことは何ですか。

A：2つあります。

(1) 「読書により思慮深さ」を身に着けること。

①中学校や高校の教科書で紹介されている著者の本を、著者と対話するようつもりでゆっくりと何回も読み、ものごとの本質を深く考えましょう。

②気に入った文章や語句があったら「書き抜き読書ノート」に書き写し、折に触れて読み直してみましようね。

③「図書館」の利用の仕方を一日も早く身に着け、図書館を最大限に利用しましょう。

(2) 高校生は、「新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力」を身に着けましょう。

①「新聞は社会の watch dog(番犬)」。社会に問題があったらワンワンと吠えて、人々に問題のありかを知らせるのが新聞の役割です。

②新聞は家や図書館で毎日読む。気になる記事は切り取り、「スクラップブック」に貼りつけて保存すること。

* 図書館の新聞は手続きを取り、コピーするか、書き写すこと。図書館の新聞は公共のものだから、切り取ることは許されません。



(3) 「学び方、学習の仕方を身に着ける」こと。学習には3段階あると私は考えます。

①うんなるほどとよくわかる、「理解」する段階

②一度「理解」してもすぐに忘れることが多いので、「定着」させる、つまり身に着ける段階

③それらを応用してテストでよい点数を取ったり、社会で役立てたりする「応用」の段階です。

Q 6 : 最初の「理解」の段階で大切なことは何ですか。

A : 第 1 のうなるほどよく「理解」するとき最も大切なのは、「授業の予習」をすることです。せつかくですので、「予習の仕方」をお話します。

《予習とは》

- (1)教科書や問題集、教材などを^{あらかじめ}予めゆっくりと読むこと。読んでいてよくわからないことばがあったら、「国語辞典」や「漢和辞典」、「英和辞典」(英語のよくできる人は「英英辞典」)、各教科の「用語集」や「参考書」などを用いてその意味を調べること。
- (2)辞書などで調べたことは「ノート」に書き写すこと。
*ノートに書き写したことは何回もよく読み直して、その意味を覚える、身に着けることも大事です。学力は、自分でよく「理解」した上でよく身に着けていることばの数の多さで決まるともいえます。
- (3)例えば、1日に10の新しいことばを辞書で調べて身に着ければ、10日で100、1か月で300、1年で3650、3年で10000語を身に着けることができます。
- (4)これをガッチリ勉強したいという科目があったら、1日に10の新しいことばの意味調べを提案します。「継続は力なり」、すごいことになりますよ。
- (5)計算や問題練習があったら、予習のときに少し大きめのノートに解いてみる。問題はすべてノートに書き写し、すべてに挑戦すること。わからなくても気にしない。どんどんやってください。
- (6)「予習は何のためにするのか」を考えたことがありますか。私は、「予習はわからないことをはっきりさせてから、学校の先生の授業に臨むためにするもの」と考えます。
- (7)予習の最後に、テキストがスラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をすること。テキストに出ている文章の語句が正確に書けるようになるまで「書き取り練習」も済ませておくこと。意味調べをした語句をもう一度読み直して、その意味を覚えてしまうこと。

Q 7 : 「予習」のほかに、「理解」の段階で大切なことは何ですか。

A : 「予習」も大切ですが、「理解」の段階で大切なことは「学校の授業」をきちんと受けることです。

- (1)欠席、遅刻、早退、居眠り、ケータイ、スマホ、外を見ること、ボーッとしていること、ほかのことを考えていることなどは「理解」の著しい妨げになります。できるだけ避けましょう。おしゃべり(私語)は論外、授業妨害と私は考えます。
- (2)授業中は先生の顔、特に口元を見て一言も聞き漏らさない熱心さで授業に臨むこと。必要なことは「ノート」に取ること。

Q 8 : 授業中にノートを取ることは大切なのですか。

A : はい、大切です。ノートは学校でも大切ですが、社会でも大切です。

- (1) ノートを取ることができるのは大事な能力です。授業中に先生がお話になることや、先生が黒板に書かれたことの中で大切なことを自分でまとめ、ノートに取ることは極めて高度な能力です。
- (2) ここで、皆様に質問します。皆様がノートを取れるのは何語による授業ですか。日本語を含め、()の中にお答えください。
() () () ()
- (3) ところで、仕事をするときには、大きな企業には仕事の指示書、マニュアルなどがありますが、そこに仕事のすべてが書かれているわけではありません。上司や同僚、部下の方々の打ち合わせや、お客様やビジネスパートナーとのコミュニケーションとともに、多くの仕事をしていく上で一番大切なことの1つが、メモを取り、メモを整理し、確実に仕事をすることです。仕事の上で打ち合わせたことやお客様からの依頼、お客様と約束したことのすべてを記憶することは困難を極めますので、絶えずメモをし、そのメモを整理し、見直し、確認しながら仕事をするのが求められます。
- (4) 学校の授業中にノートを取る、ノートを整理し、それを活用することは、仕事をする上でメモを取ることに繋がります。
- (5) 「仕事のできる人はメモを取り続ける」「仕事はメモで身に着ける」と言われるほどです。
- (6) 高校卒業後に大学、短期大学、専門学校に進学する人は、より高度な内容の授業のノートを取らなければなりません。外国に留学する人は、英語やその他の言語でノートを取らなければなりません。
- (7) 高校時代に、しっかりとノートを取る能力、授業が終わったあとにノートを整理し、それを活用する能力を身に付けてください。ノートを取り、ノートを活用する能力ほど世の中に出て役立つ能力はありませんよ。
- (8) 社会に出てからもいろいろな場面で研修を受けたり、勉強をして試験を受けたりしなければなりません。そのときにも「予習の仕方」や「授業の受け方」、「ノートの活用の仕方」が直接役に立ちますよ。

Q 9 : 「理解」の次の「定着」とは何ですか。

A : (1) 一度うんなるほどとよくわかった、「理解」したことを、スミからスミまで正確に自分のものにすること、身に着けることです。

(2) 「理解」したことを「定着」させるには、次の3つの練習が有効です。

① 教科書などをスラスラとよく読めるようになるまで、声を出して何回も繰り返して正確に読む「音読練習」。

② 「ノート」や「プリント」、「問題集」なども「音読練習」を。

- ③教科書などに書かれている語句を楷書(教科書などの書体)で書けるようになるまで書く練習をする「書き取り練習」。
- ④「ノート」や「プリント」、「問題集」などの大切な語句も「書き取り練習」を。
- ⑤なぜそのような解答になるのかを十分に「理解」している基本的な計算や問題は、見た瞬間にパッパッと条件反射で答えが出るまでにする「計算・問題練習」。
- ⑥この 3 つの練習を、私は「定着のための 3 大練習」と名付けました。「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「定着のための 3 大練習」は学校時代の学力向上にも役に立ちますが、社会に出てからのあらゆる勉強にも役に立ちます。

Q10：最後のテストでよい点数を取るため、また、社会で役に立つための「応用力」をつけるにはどうしたらよいですか。

- A：(1)大学などの上級学校に進学したあとはもちろん、就職のときには採用試験、社会に出ても自動車の運転免許証取得や国家試験、TOEIC(英語の実用試験)をはじめ数多くの試験を受ける場面があります。そのたびごとにどのような勉強の仕方をすればよいのかを考えることも大切ですが、先生の授業を聞いたりテキストで勉強したりして「理解」したことを「定着のための 3 大練習」を実行して確実に身に付け、その上でよい点数を取るためのテスト対策をして「応用力」をつけることが求められます。
- (2)私のおすすめのテスト対策は、「過去に出題された問題(過去問)5～6年分の同じ問題を5～6回しっかりとやる」ことです。
- (3)間違えた問題の番号に印をつけてなぜ間違えたかを自分でよく考えた上で、不足する学習をしっかりとし直して、合計5～6回やってみる。
- (4)間違えた問題は、「まとめノート」や「間違いノート」を作ってよく整理。「同じ誤りを二度としない」ようにする。
- (5)高校生のうちに、また、大学入試センター試験などを通して、自分なりの試験の受け方を身に付け、「自分の大切な能力」の1つにしてしましましょう。

Q11：仕事とは一体何ですか。林さんは、人はなぜ働くとお考えですか。

- A：(1)仕事には必ずお客様、顧客こきやくがいます。仕事について考える場合に最初に考えなければならないのは、「この仕事のお客様、顧客とは一体誰か」ということです。難しいことばでいうと、「顧客の定義ていぎ」が大切です。
- (2)この仕事の自分のお客様は誰かということ、つまり顧客の定義をしたあとに考えなければならないのは、この仕事、つまり自分の仕事とは何かということです。私は、「仕事とはお客様のお役に立つこと」だと考えます。どのようにお役に立つかといえば、「お客様がお困りになっていることの解決に少しでもお役に立つこと」、つまり「顧客の問題解決」だと考えます。
- (3)同じようにお困りになっているお客様が世の中にはたくさんいると思われまますので、「仕事とはお客様のお役に立つことで世の中のお役に立つこと」だと私は考えます。「顧客の問

題解決を通して社会の問題解決に役立つこと」が仕事であると考えます。

(4)なぜ新聞を毎日読むことが必要かといえば、新聞は社会の問題とは何かを幅広い見方で知るのにとっても役に立つからです。

(5)ここで、皆様に1つ質問です。

皆様にはなりたい仕事、ちょっと興味のある仕事がありますか。もしあったら、その仕事を次の()に書いてください。なければ、中学生のときにインターン・シップに行った仕事を書いてください。その仕事のお客様、顧客は誰ですか。また、その仕事はそのお客様の何に役立つ(何の問題解決になる)ことを目指していますか。

仕事の名前	お客様は誰か	何の役に立つか
()	→()	→()

Q12：林さんは、人は何のために働くのだと考えますか。

- A：(1)生活できるだけの収入を得るため(家族合計して)
(2)お客様のお役に立つため、世の中のお役に立つため
(3)(仕事を通して)よく生きるため
(4) 御参考

内村鑑三著「後世への最大遺物」(岩波文庫)
人が死んだ後、後の世に遺せるもの
(1)お金
(2)事業(仕事)
(3)著書(作品)
(4)教え(教育)
(5)生き方

(5)ここで質問です。皆様は、人は何のために働くのだとお考えですか。()の中に書いてください。

()

Q13：高校での教科の勉強や教科以外の教育活動は、世の中で、また、仕事や社会的活動をするのに役に立つのですか。

- A：(1)すべて役に立ちます。役に立たないことは1つありません。小学校や中学校での教育も大切ですが、高校での教育は社会に出て仕事や社会的活動をする上ですべて必要不可欠です。
(2)故に、高校の教科書、授業中のノートはすべて一生保存し、先生の授業や友達と一緒に学んだ様子を思い出しながら、繰り返し読み直すことです。決して廃棄しないでください。高校の教科書ほど、人がよく生きるために大切なものはありません。小学校や中学校の教科書も、また、これから進学する大学などの教科書やノートも、宝物のように一生大切に保存し

てください。そして、繰り返し、繰り返し何回も、何十回も読み直しましょう。小学校から大学や大学院までの教科書に載っている気に入った著者の作品を、対話をするようなつもりでゆっくりと読むこともしましょう。

(3) 高校での勉強は、社会に出る前の第一歩と考えてください。

(4) 学校行事や学級活動、生徒会活動、クラブ活動、部活動、体育祭、文化祭、修学旅行、芸術鑑賞、宿泊研修など様々な活動にも積極的に取り組んでください。

御参考

スポーツを通して得られる「3つの宝」

(1) 「練習は不可能を可能にする」

(2) 「フェアプレー」(ルールを守る。いやしいプレーはしない)の精神

(3) 「よき友」

小泉信三・慶應義塾塾長

Q14：社会で貢献できるために高校時代にしておくべきこと、身に着けておくべきことは何ですか。

A：(1)あまりしないほうがよいこと

- ①スマホ、ネットサーフ、ゲーム、TVの見過ぎ
- ②メール(3分ルールは論外)
- ③群れること
- ④高校生の本分に反すること
- ⑤タバコ、飲酒、夜更かし

(2)したほうがよいこと

- ①ボランティア活動
- ②スポーツー目指せ2020年東京オリンピック・パラリンピックー
- ③文化・芸術活動
- ④読書、新聞を読むこと
- ⑤小旅行(国内、海外)
- ⑥コンテストへの参加ー挑戦ー
- ⑦工場・病院・介護施設・企業見学ーいろいろな人と会い、いろいろな話を聞くことー
- ⑧この仕事や社会的活動は世の中の何に役立っているのだろう、どのような問題解決に役立っているのだろうと1つ1つの仕事や活動を考えてみる
- ⑨自分のよさ、自分の強み、自分の潜在可能性を自分の力で見つけ、自分の力でどんどん伸ばすこと。自分とは何か、自分は何をやりたいのかを日本語や英語でノートに書き著してみる

⑩ 「5S」

- (ア) 整理(不要なものを捨てること)
- (イ) 清掃
- (ウ) 整頓(ものを決まったところに置くこと)
- (エ) 清潔
- (オ) 躰(自分から進んで行うこと)

しつけ
躰とは

- ① 美しい立居振舞(服装も含む)
- ② 敬語表現を含む言葉遣い

Q15 : 最後に一言どうぞ。

A : 学校を卒業してからの私の好きなことばを最後に紹介させていただきます。

- (1) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」 (ドラッカー先生)
- (2) 「会った人は皆友達」
「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」
「よいことをして忘れること」 (京都 一燈園、石川洋先生)
- (3) 「目には遠いが、心は近い」 (インドのことわざ)
- (4) 「持続する志」 (作家 大江健三郎先生)
- (5) 「初心忘るべからず」
「^{りけん} ^{けん} 離見の見」
— 舞台上で舞っている自分を離れている客席から見ると — (世阿弥)
- (6) 「一生勉強、一生青春」 (相田みつを先生)
- (7) 「健康第一(心の健康、身体の健康)」

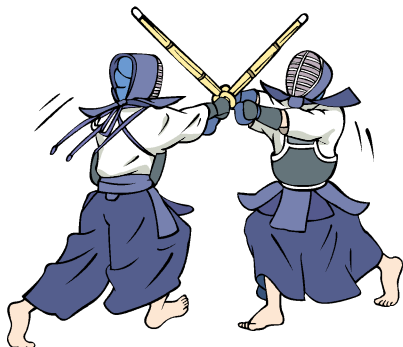
If you can dream, you can do it!

— もしあなたが夢をみることができれば、あなたはそれを実現することができる —

御清聴、ありがとうございました。

御質問、御意見、御感想、コメントがありましたら、御自由に御発言ください。

以上



時評

「おもてなし」栃木でも

おもてなしを合い言葉に、日本は2020年夏季五輪・パラリンピックの東京招致に成功した。2020年までには7年間ある。初めて日本を訪れる外国人をおもてなしの精神でお迎えする準備を、栃木県でも一日も早くスタートしたい。地域全体の国際競争力を強化するという考えで戦略をもって実行すれば、栃木県のグローバル化にも直結する。

開倫塾塾長 林 明夫



とだ。

初めて日本を訪れる外国人にとつての最大のおもてなしは、日本での移動、滞在が快適であることだ。例えば鉄道やバス、レンタカーなどで

をただローマ字に直しただけでは何の意味かわからない。鉄道、バス、タクシー、レンタカー、道路、駅、観光地だけではなく、商店、大型商業施設、県庁、市役所、町役場、医院、歯科医院、病院、保健所、警察、検察庁、裁判所など外国人が来ることが予想されるありとあらゆる施設で、2020年までに日本語と同じ大きさで内容のわかる英語表示をすることを提言し

の仕事について外国人とコミュニケーションできるだけの英語能力を7年かけて身につけてほしい。それらすべての施設のホームページに英語やいくつかの言語版を7年かけて整備することも提言したい。

私は年に何回か外国に出掛け、現地の方々と少人数で意見交換をすることが多い。私が現地の言語が理解できないとわかれると、その瞬間、私のためにもその場のことは英語になる。これが親切というものだ。日本語がよくできない外国人が会話の仲間に加わったとき、何の躊躇もなくパッと英語に切り替えることがおもてなしだと思おう。時間はまだ7年ある。初めて日本を訪れる外国人にとつての本当のおもてなしとは何かを栃木県や各市町をあげて考え、戦略を立てて少しずつでも実行に移すことができれば素晴らしいと思う。知事や市町長、責任者の方々の強烈的なリーダーシップを期待したい。